
インフィニット・ストラトス～剣の魔物～

通りすがりのデュエリスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インフィニット・ストラトス〜剣の魔物〜

【Nコード】

N1722BA

【作者名】

通りすがりのデュエリスト

【あらすじ】

若干15歳にして傭兵として世界各地を飛び回っていた主人公、
蓮見一季。はすみ いつき

ある紛争地域で運命的な出会いを果たす。

「私は1日を35時間生きる、天才篠ノ之束^{しのゆづね}だよ。ラブリー束さん
って呼んでね。」

その出会いの1ヶ月後、一季はIS学園に編入する。

ブログ 奇妙な天才との出会い（前書き）

どうも、初めての方ははじめまして。そうではないからは改めて
よろしくお願いします。

初めてISの小説を書かせていただく通りすがりのデュエリスト
です。

いろいろと未熟な部分はあると思いますがよろしくお願いします。

プロローグ 奇妙な天才との出会い

とある戦時中の小さい国

この国の国防上重要な地点で隊長の座に位置する男が高笑いしていた。

「ハッハッハッ！この圧倒的な布陣！どんな大軍が押し寄せて来ようとも突破出来るものではない！」

100台をゆうに越える戦車。この男の言う通り、通常ならば軽々しく突破出来るような軍勢ではないだろう。

「まあ、ISでも来れば別だろうがこんなところに来るわけがないからな！」

この男の言うISとは、正式名称「インフィニット・ストラトス」
。宇宙空間での活動を想定して作られたマルチフォーム・スーツだ。

しかし、制作者の意図とは別に宇宙進出は一向に進まず、結果このスペックを持て余した機械は兵器へと変わり、しかしそれは各国の思惑からスポーツにと落ち着いた――所謂、飛行パワードスーツだ。

このIS、攻撃力、防御力、機動力、その全てが他の兵器を凌駕

している。故にISが登場したことで他の兵器はもはや鉄クズ同然となり、世界の軍事力（正しくは有事の際の防衛力）はISをどれほど保有しているかによって左右されることになった。

しかしそのISには致命的な欠陥がある。それはなぜか女性にしか反応しないこと。そのせいで世界中で女性優遇制度が取り入れられ、あつという間に女尊男卑の風潮が高まっていった。それが今の先進国の状況、というわけである。

「さあて、敵はどう攻めてくるかな。まあ手出しなんて出来ないと思うがな！ハッハッハッ！！」

高笑いする男の余裕の態度とは裏腹に緊迫した雰囲気の隊員が司令室の扉を開けた。

「隊長！！敵襲です！！」

「なに？だが焦る必要はない。この布陣は突破出来るものではないからな！」

「いえ、それが」

「ま、まさか ISか！？」

この男は自分の隊の布陣を崩せる唯一の可能性、ISの登場かと思ったが隊員の口から発せられたのはその考えからかけ離れた言葉だった。

「いえ 非常に信じがたいことなのですが 敵は人間1人です！！」

「はあ！？」

これは誰でも信じられないだろう。100台を超える戦車部隊がたった1人の人間によって突破されてるといふのだから。

「そんなバカなこと」

そう言い掛けた時、本部の前を防衛していた戦車が爆発する音がした。

「なっ
!？」

「隊長！！ここは危険です！！速やかに脱出を」

隊長に脱出を促す隊員。しかしもう既に逃げるには遅かった。

「まったく行動が遅えよ。逃げんならもつと早く脱出しろよ。」

何故なら隊員の首を刀で斬り落とし、部屋の唯一の出口の前に侵入者が立ちふさがっているのだから。

「あ
あ
あ
あ」

「さて てめえを殺せば終わりだ。」

侵入者が隊長にゆっくり近づく

「ま、待て！少し話しあ

隊長は最後まで言葉を発することなく、侵入者の手によって首を刎ねられて絶命した。

「目の前の敵と話し合えるほど戦場は甘くねえんだよ。」

そう言い残し、侵入者は生きた人間がいなくなった基地を後にした。

「今回も大したことなかったな。」

先ほど軍事基地を殲滅した侵入者 蓮見一季^{はすみ いつき}は悠々と基地の管轄内を歩いていた。

この蓮見一季、15歳にして世界中の紛争地帯に飛び戦う傭兵なのだ。実力は先ほどの戦いを見れば明らかだろう。そして

「あんな大掛かりなことをやった後にそんなにゆっくり帰って援軍は来ないのか？」

仮にそう聞かれたら彼はこう答えるだろう。

「援軍？上等だ。来たら来たで1人残さず殺せばいい。」

と。

「さて、次の依頼は 篠ノ之束の捕縛、か。」

この篠ノ之束、先ほど解説したISの開発者である。

ISを開発したことで政府の監視下に置かれていたが、約3年前に突如失踪。それ以来行方不明なのだ。そして現在も各国政府に終われている。

「さて、どうやって探すかな。」

そう一季が思案しているその時、上空に何かの気配を感じて空を見上げる。そこにあったのは

「ニンジン?」

そう、上空からデフォルメ調のニンジンが落ちてきているのだ。

「。」

そのあまりのシュールさに一季は固まってしまった。空飛ぶニンジンを見たら誰だって驚いて言葉を失うだろう。

「!やべえ!」

固まってしまったせいで反応が遅れ、ニンジンが直撃しそうになる。

一季は咄嗟に刀を2本抜き、ニンジンを受けとめた。上空から猛スピードで飛んでくるものなど普通なら止められるわけがないだろう。しかし

「はああああ!!」

一季は刀2本で受けとめた。そして

「ぜえいつ!」

受け流すようにニンジンを払った。勢いのままニンジンが地面に突き刺さる。

「何なんだこりゃ。」

地面に刺さったニンジンを見ながら呟いた。するとニンジンが半分に分かれ、パカッと開いた。

「やあああ、噂通りのパワーだね。思わず感心しちゃったよ。」

割れたニンジンから現れたのは腰まである長い髪、青と白のワンピース、頭には何故かウサミミを着けている、1人で不思議の国のアリスを体現している女性。明らかに怪しい。

「あんた 誰だ?」

一季は身構えて警戒する。戦場にニンジンに乗って不思議の国のアリスもどきが降ってきたら一季ではなくても警戒するだろう。

「まーまーそう警戒しないで、ふれんどリーにいこーよ。」

そう言って1人アリスは手を差し出す。

「何のつもりだ？」

「握手だよ。」

「なぜ握手？」

「早く信用してもらうのにはこれが一番手っ取り早いからね。」

そう言うアリスもどきの目を一季は見る。

一季はその相手の目を見れば相手のことがある程度わかる。まさに目は口ほどに物を言う、と言ったところだ。しかし

「（こいつは）！」

その目を見た瞬間恐怖が沸き上がった。まるで全てを見透かされるような。

「どーしたの？」

聞こえてくる呑気な声。その声の主と同一人物とは思えない目。一季はこの2つの要素から目の前の人物はただ者ではないと判断した。

そして

「わかったよ。」

一季は握手に応じた。これは一季が相手のことを認めたということになる。

「うんうん、しんよーしてくれたみたいだね！じゃあ早速いこー！」

いきなり一季の手を取ってニンジンの方へ引っ張っていく。

「は！？どこに行くってんだよ！それにあんた誰だよ！」

いくらただ者ではないとはいえさつき知り合った人物にいきなり着いて行くほど一季はバカではない。むしろ着いて行きたくない。

「あつ、そーいえば自己紹介してなかったね。」

一季の手を離してくるりと方向転換する。

「私は1日を35時間生きる、天才篠ノ之束^{しののめ}だよ。ラブリー束さんって呼んでね。」

それが蓮見一季と篠ノ之束の出会いだった。

そして1ヶ月後

「ふう。」

場所は日本、一季はある場所に行くために電車に乗り、たった今降りたところだ。

「。」

目的地に向かって歩きだす。その足取りは幾分か軽いように見える。

「久しぶりの学園生活、どうなるかねえ。」

そう呟いた後は無言で歩いた。

「ここか。」

目的地に到着したところで足を止めた。その目的地とはIS学園。IS操縦者や技術者を養成するために設立された特殊国立高等学校。

「さて、受付はどこかな。」

この瞬間から蓮見一季のISS学園での生活が始まった。

プロローグ 奇妙な天才との出会い（後書き）

いかがでしたか？

原作キャラを書くのは初めてなので口調や性格が変わっていないか心配です。束さん難しい。

さて、主人公の一季ですがプロローグ時点で既にチートですね。100台以上の戦車を突破して司令塔にいた人間を残さず殺してますからね。どうしてこうなったか自分でもわかりません。

私自身未熟な上にもう1つ連載を抱えているので更新は遅くなると思いますがこの小説をよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1722ba/>

インフィニット・ストラトス～剣の魔物～

2012年1月4日12時49分発行